

はじめ
でも

これ1冊できちんとわかる

棒針編みの 基本BOOK

鎌田恵美子



編んでいくうちに
基礎が
どんどん身につく!

はじめ
でも

これ1冊できちんとわかる

棒針編みの 基本BOOK

鎌田恵美子



もくじ

本書は「基本→STEP 1～STEP 5」で構成しています。

その章ごとにそれぞれ3つの難易度の作品を紹介。

初心者の方は、順に作品を作っていくことで、STEP 5の作品を編み上げるころには、無理なく棒針編みの基礎テクニックが身に付いている仕組みです。

また、作品の編み方ページには作品ごとに使うテクニックも明記。

自分のレベルに合わせて編む作品を決められます。

※★は難易度です。

棒針編みの基本

道具について	P4
毛糸と針のこと	P6
基本のパターン	P8
基本のテクニック	P10

まずは道具のことや、編み図の読み方、基本中の基本「表編み」と「裏編み」を覚えます。



STEP 1

往復編みで作るマフラー



★ ガーター編み 1色マフラー	P18
★★ ゴム編み 2色マフラー	P24
★★★ 交差編みのスヌード	P32

編み物の基本、「往復編み」でマフラーを作ります。「ガーター編み」「ゴム編み」「交差編み」もマスター。

STEP 3

4本針で作るちいさな小物



★ かのご編みの指なし手袋	P70
★★ 3色のくつ下	P76
★★★ 交差編み4種類のミトン	P86

輪編みをさらにステップアップ。4本針を使って、ちいさな小物を編んでいきます。



STEP 2

輪編みで作るニット帽



★ 2目ゴム編みのニット帽	P42
★★ ポンポン付きベレー帽	P50
★★★ 模様編み折り返しニット帽	P60

輪状に編む「輪編み」をマスターできるニット帽。「減らし目」と「増し目」もここで解説します。



STEP4

プラスひと手間かける
バッグ&ポーチ



- ★ 裏地付きリボン型クラッチバッグ … P98
- ★★ 連続した交差編みのポーチ … P104
- ★★★ 交差編み模様のマチ付きバッグ … P110

「裏地付け」や「ファスナー付け」で実用的な
バッグやポーチを作ります。

STEP5

多色を楽しむ編み込み小物



- ★ 北欧柄の編み込みクッション … P118
- ★★ アーガイル柄3色ポシェット … P122
- ★★★ チェック柄4色ヘアバンド … P126

さまざまな「編み込み」柄にチャレンジ。
「ステッチ」でチェックやアーガイル柄も。

Challenge

基本のテクニックで作れる
あったか小物



- 伝統柄の編み込みニット帽 … P136
- 模様編みのケープ … P137
- 編み込み模様のソックス&ハンドウォーマー … P140

本書で紹介しているSTEP5までのテクニックの
組み合わせで作れます。

索引 P142

編地をほどこきたい!	P31
交差編みを理解する!	P38
ゲージは取らなきゃだめ?	P49
サイズを調整したい!	P66
裏目と表目を間違えた!	P75
目を落とした!	P85
穴を隠したい!	P94
アイロンのかけ方を知りたい!	P103
あると便利なグッズは?	P109
編み込みし忘れた!	P132



【注意事項】

※本書の作品はハマナカ手芸手
あみ糸、ハマナカアミアミ手あ
み針、ハマナカアミアミあみも
の用具を使用しています。糸、
用具のお問い合わせはP144を
ご参照ください。
※すべての作品に記されている、
仕上がりサイズや使用糸の量は
目安です。



道具について

棒針編みに使う基本のアイテムを紹介します。
実際に使う道具は、
各作品の編み方ページで確認しましょう。

①



②



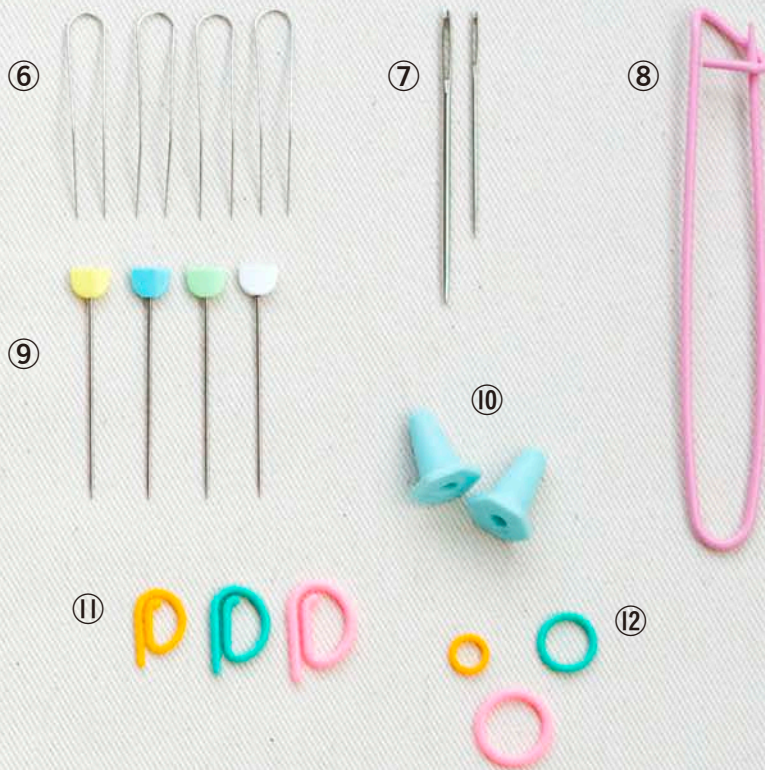
③



④



⑤



①玉付き棒針

マフラーなどの往復編みに使う、玉付きの棒針です。基本は2本セットで使います。号数が大きくなるほど、針は太くなります（※針の太さ・号数についてはP7参照）。／ハマナカ アミアミ玉付・2本針（長さ33cm）

②4本針

両側が針になっていて、帽子など、輪に編んでいく作品に使います。4本または5本セットになっています。／ハマナカ アミアミ短・5本針（長さ20cm）

③輪針

2本の針がナイロンコードなどでつながっている編み針です。帽子などの輪状のものを編むのにおすすめ。コードの長さもさまざま。／ハマナカ アミアミ輪針（40cm）

④かぎ針

棒針編みの作品作りでも持っておきたいアイテム。ステッチをしたり、目を落とした

ときに使うと便利です。／ハマナカ アミアミ両かぎ針 ラクラク（13.5cm）

⑤なわあみ針

交差編みに使います。3つの太さの針がセットになっているものがほとんど。／ハマナカ なわあみ針（3本セット）

⑥アイロン仕上げ用ピン

編み上がった作品をアイロンがけする際に使うと美しく仕上がります。／ハマナカ アイロン仕上げ用ピン（50本セット）

⑦毛糸とじ針

とじはぎや糸始末をするときに使う、毛糸用の針です。／ハマナカ 毛糸とじ針（6本セット）

⑧ほつれ止め

くつ下を作るときなど、一旦、目を休ませるときに使います。／ハマナカ ほつれ止め（2本セット、12cm）

その他

必要なもの

⑬ハサミ

毛糸などを切るときに使います。

⑭アイロン

作品の仕上げに使います。スチーム機能が付いているものを用意しましょう。

⑮メジャー、ものさし

ゲージを取るときや、糸の長さを測るときに使います。

⑨まち針

バッグのもち手など、作品のパーツ同士を合わせるとき、固定するために使います。／ハマナカ まち針（10本セット、4.5cm）

⑩ゴムキャップ

編んだ目が棒針から落ちないように針先に付けて使います。／ハマナカ ゴムキャップ（太～細まで兼用型4ヶ入り）

⑪段目リング

編んだ段数の目印に使います。本書では、くつ下や手袋の編みははじめの印としても使っています。／ハマナカ 段目リング（大・中・小各5ヶ入り）

⑫編目リング

輪編みをする際に、編みはじめや、減らし目、増やし目の目印として使います。／ハマナカ編み目リング（大・中・小各5ヶ入り）



毛糸と針のこと

編みはじめる前に、まずは作品に使う
毛糸と針の、種類と選び方を知っておきましょう。

○ 毛糸の選び方と扱い方

毛糸には、さまざまな太さや素材、色があります。
糸玉には、必ず下のようなラベルが付いていて、素材や洗濯の仕方、
適した針の太さが明記されています。
作品が完成するまで保管しておきましょう。

1玉あたりの毛糸の重さと長さ
です。各作品の目安を参考に、
必要な量を購入しましょう。

素材の品質表示です。「毛」
はウールと表示されている場
合もあります。写真のように
混合の場合はその内容と割合
が記されています。

適した針の太さを号数で
示しています。



色番はメーカーごとに決めら
れた毛糸の色を示していま
す。色番と一緒に記載されて
いるロットは、染色釜の番号
を示しています。

※ロットが異なると色が微妙に異な
ることがあるので、同じロットの色
玉を多めに購入するのがおすすめ
です。

洗濯する際の取扱の注意事項です。

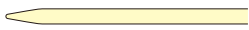
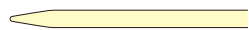
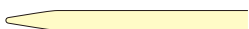
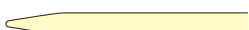
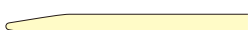
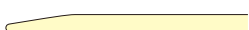

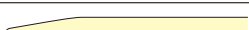
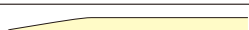
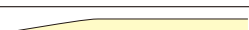
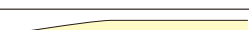
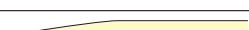
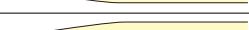
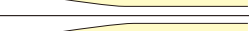
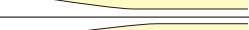

- ① 水温 30℃以下および中性洗剤で手洗い可。
- ② 塩素系の漂白剤不可。
- ③ アイロンは低温(80~120℃)で当て布が必要。
- ④ ドライクリーニング可。
- ⑤ 手しぼりは弱く。遠心脱水の場合は短時間で。
- ⑥ 日陰で平干し。

参考使用針でメリヤス編み
(P8) を編んだときの10×
10cmの中に入る標準的な目
数と段数が記してあります。

※ゲージについては、P49参照。

○ 針の選び方

棒針編みの針は、玉付き2本針、4・5本針、輪針があり、
材質は竹やプラスチックなどさまざまです。
号数も、毛糸の質や作る作品によって使い分けます。

号数	太さ/mm	実寸	適した毛糸の太さ				
0	2.1		極細				
1	2.4						
2	2.7						
3	3.0		中細				
4	3.3			合太			
5	3.6		並太				
6	3.9						
7	4.2						
8	4.5						
9	4.8		極太				
10	5.1						
11	5.4						
12	5.7						
13	6.0		超極太				
14	6.3						
15	6.6						

※上の表は目安です。毛糸のラベル表示を目安に針を選びましょう。
※本書では使用しませんが、7~20mmの超極太針もあります。



基本のパターン

棒針編みは、基本的に「表目（表編みのできる目）」と「裏目（裏編みのできる目）」をくり返し編んでいきます。その中でも基本4パターンがこちら。
本書にも多く出てくるので、編み図とあわせて覚えておきましょう。

ガーター編み



編地を見ると、表目と裏目が1段ずつ交互に連続しています。表を見ながら編む段も、裏を見ながら編む段も、表目だけを編んでいきます。編地に厚みが出て丸まらないので、さまざまなアイテムや縁を編むのに活用できます。

編み図

—	—	—	—	—	—
—	—	—	—	—	—
—	—	—	—	—	—
—	—	—	—	—	—

□| = 表目
□— = 裏目

メリヤス編み



棒針編みのもっとも基本となる編み方で、編地は表目だけです。表を見ながら編む段は表目、裏を見ながら編む段は裏目と、編地を返しながら交互に編んでいきます。編地を裏から見ると、目はすべて裏目になっています。

編み図

□| = 表目

ゴム編み



表目と裏目が、決まった目数ずつ縦に交互に編まれています。
表1目と裏1目なら1目ゴム編み、表2目と裏2目なら2目ゴム編みといます。メリヤス編みの発展形で、つねに前の段の編目と同じ編目で編みます。

編み図 (2目ゴム編み)

		-	-		
		-	-		
		-	-		
		-	-		
		-	-		
		-	-		
		-	-		
		-	-		

□ = 表目
□ = 裏目

かのご編み



表目と裏目が、縦横交互に編まれています。1目1段交互に編むことを1目1段かのご編み、2目2段交互に編むことを2目2段かのご編みといます。1目1段かのご編みは、つねに前の段の編目と逆の目で編んでいきます。

編み図 (1目1段かのご編み)

-		-		-	
	-		-		-
-		-		-	
	-		-		-
-		-		-	
	-		-		-
-		-		-	
	-		-		-

□ = 表目
□ = 裏目



基本のテクニック

「作り目」「表編み」「裏編み」「往復編み」は棒針編みの基礎となる必須テクニックです。作品を作る前に、まず身に付けましょう。

糸端の引き出し方

糸玉の内側から糸端を引き出します。



1 糸玉の中に指を入れ、糸端を探しながら小さな糸のかたまりを引き出します。



2 糸のかたまりを出したら糸端を引き出し、余分な糸のかたまりは糸玉の中に戻します。

一般的な作り目

本書では初心者にもわかりやすい一般的な作り目を紹介します。



1 糸端から仕上がり幅の3.5倍の長さのところまで、輪を作ります。



2 輪の中に指を入れ、糸玉側の糸をつまみます。糸端はつねに手前側にくるようにします。



3 つまんだ糸を、輪から引き出します。



4 そのまま輪を引っ張ります。



5 できた輪に2本の針を通し、糸玉側の糸を引っ張って輪を縮めます。これが1目めになります。



6 左手の親指と人さし指を広げ、1目めから出ている2本の糸を分けるようにかけます。



7 糸をかけたまま、手のひらを手前に向けます。



8 左手の中指・薬指・小指で2本の糸をつかみます。



9 右手で持った針をそのまま左手の親指の根元まで下げます。



10 左手の親指にかかった糸を、針で下からすくいます。



11 人さし指にかかった糸(★)を右からすくいます。



12 親指にかかった糸の輪の中から糸(★)を引き出します。



13 親指の糸を一度はずし、糸端側の糸を親指を使ってしっかりと引っ張ります。



14 作り目の2目めができました。8～13をくり返し、指定通りの目数を作ります。



15 指定の数だけ作り目ができました。これが1段めになります。



16 側面から見ると、「<」が連続して並んでいます。



17 針を1本抜き取ります。

基本の持ち方

左手の糸のかけ方と、右手の針の持ち方をおぼえましょう。



1 糸玉側の糸を、左手の人さし指と薬指にかけます。



2 そのまま、人さし指以外の指で針を持ちます。



3 糸がかかった左手の人さし指を立てて糸を張り、右手でもう1本の針を持ちます。

POINT

右針も人さし指以外の指で持ち、針先から1~2cmのところに人さし指の先がくるように添えます。

表編み

表編みとは、「表目」で編むことをいいます。



1 糸を左針の向こう側に置いて、右針を目の左から入れます。



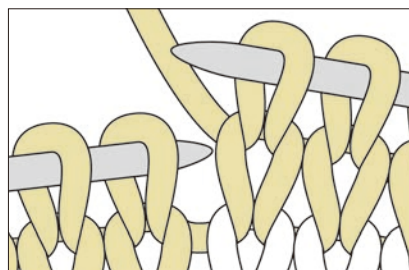
2 目に針を入れたまま糸をかけます。



3 右針にかけた糸を、向こう側から手前側に引き出します。



4 糸を引き出したら、左針から目はずします。表目が1目できました。



5 表の目は「V」のような形になっています。